

経済 TOPICS

No. 255

(2026年5月18日)

景気ウォッチング（要旨）

日本 … 個人消費や生産が横這い圏内の動きとなるなか、輸出が堅調に推移しているほか、設備投資が増加傾向を続けていることから、全体として緩やかな成長が続いている。消費者物価(除く生鮮食品)は、エネルギー価格が高騰し、政府の負担軽減策による効果を減殺したことから、前年比プラス幅が拡大した。中東情勢の緊迫化に伴い、原油供給に対する先行き不透明感が極めて強い状態が続いている。

米国 … 個人消費は弱めの動きを続けているものの、輸出と設備投資が大幅に増加していることから、全体として底堅く推移している。中東情勢の緊迫化に伴うエネルギー価格の高騰が続いていることから、消費者物価(総合)の前年比プラス幅が大幅に拡大するなど、先行き不透明感が極めて強い状態が続いている。

(参考)日米の物価動向

〈日本〉 食料価格(除く生鮮食品)の前年比プラス幅は縮小傾向にあるものの、エネルギー価格が高騰し、政府の負担軽減策による効果を減殺したことから、前年比プラス幅が拡大した。また、国内企業物価が大幅に上昇していることから、消費者物価への上昇圧力が強まっている。この間、食料価格(除く生鮮食品)の上昇が続いているため、エンゲル係数が大幅に上昇している。

〈米国〉 中東情勢の緊迫化に伴うエネルギー価格の高騰が続いていることから、消費者物価(総合)の前年比プラス幅が大幅に拡大している。



京都フィナンシャルグループ

京都総研コンサルティング